

時局應召者

- 正會員 吉岡美清君 久野陸夫君
- 准會員 安藤 勇君
- 單獨凱旋
- 正會員 鈴木千代藏君

死亡者

正會員 八木宗一君(不詳) 准會員 小林芳夫君(九月中)  
 以上兩氏の御逝去は洵に痛惜に不堪茲に謹んで弔意を表す

日本鐵鋼協會第18回講演大會概況報告

(昭和12年自9月30日至10月11日)

本年度秋季大會の開催を北海道に選定されるや現地有力者より實行委員を推薦し本部と協議の結果プログラムを決定しその諸般の準備を進めたり

時恰も日支事變の勃發に際會し遠く内地よりの會員参加については憂慮さるべき状況にありしに拘らず豫期以上の多數の會員の參會を得て盛大に開催するを得たるは本會のために同慶にたえざるところなり

大會實行委員

本大會實施に當り會長より委嘱せられたる實行委員は次の諸氏なり

實行委員長	北海道炭礦汽船會社取締役	高洲鐵一郎君
實行副委員長	北大工學部長	倉塚 良夫君
〃	日本製鐵會社輪西製鐵所々々長	横田 文吉君
〃	日本製鋼所室蘭製作所々々長	打越 光保君
實行委員	北大工學部教授	阿久津國造君
〃	同 上	久次米三夫君
〃	北海道炭礦汽船會社	古谷金一郎君
〃	同 上	山崎 富太君
〃	同 上	松浦 三平君
〃	同 上	池上 宗毅君
〃	北海道製鐵倉庫會社	大野 龍郎君
〃	王子製紙會社苫小牧工場	栗田 正巳君
〃	輪西鑛山會社俱知安鑛業所々々長	大町 政利君
〃	北海道石炭鑛業會	小笠原榮治君
〃	日本製鐵會社輪西製鐵所	湯川 竹三君
〃	同 上	川口 正名君
〃	同 上	福田 徹夫君
〃	同 上	里村 伸二君
〃	同 上	吉 島 軍君
〃	日本製鋼所室蘭製作所	加藤 止孝君
〃	同 上	武谷 強助君
〃	同 上	黒川慶次郎君
〃	同 上	甲 藤 新君
〃	同 上	武田 文雄君

本大會出席會員實數

出席者合計 123名 内譯 内地會員 96名

講演大會

會場 札幌市北海道帝國大學工學部大講堂

**講演大會第1日** 昭和12年10月2日(土) 午前9時開會 補助員太田 芹澤兩君は受付に於て出席者氏名を調べ 見學バス代徴集印刷物配布等をなし 萩原 森田君は講演圖表係を擔當し 結城 原 小林三君は時間係を分擔 定刻 高洲實行委員長の開會の辭(要旨別項)を述べられ 次いで會長水谷博士の司會にて杉正道君 結城竹治君 吉田正夫君の順序に講演を行ひ10分間休憩に入る 尙ほ講演番號(2)の百合壽馬君の講演は本人の都合により中止せられたるにつき 結城君の講演順序が變更せられたり

10時45分より河村博士の司會の下に西武雄君 中部左内君の講演

あり 終て工學部食堂にて晝食をなす 食後北大校庭の美しき芝生に或ひは巨大なるエルムの樹下に三々五々暫し憩ふ

午後1時俵博士司會の下に山本洋一君 大倉幸雄君 菊田多利男君の講演を了し10分間休憩 午後2時30分より島岡氏司會にて矢島忠和君 眞殿統君 河合成治君の講演あり 再び10分休憩後齋藤博士司會により伊丹榮一郎君 阿部三郎君が講演し 次で佐藤知雄君が村上武次郎君の講演を代讀せられ 午後5時30分第1日講演會を終了せり

通俗講演會

10月2日(土) 午後7時 於札幌公會堂

日本鐵鋼協會及び札幌市役所聯合主催の下に通俗講演會を開催 先づ定刻高洲委員長の紹介により札幌市長三澤寛一君の開會の挨拶(要旨別項)あり 次いで日本製鐵會社輪西製鐵所々々長横田文吉君は「本邦製鐵事業に對する北海道の使命」と題し 現下道民の最大關心事を述べられて聴衆を魅了す 次に前會長工學博士河村聰君の「鐵鋼事業の性質と本邦現下の鐵鋼問題」と題して講演され 非常時局の第一線なる鐵鋼問題の正しき認識を與へられ札幌市民を啓發するところ甚大なりき

最後に水谷會長の開會の辭により盛會裡に會を閉づ

**講演大會第2日** 10月30日(日) 午前9時開會

定刻振鈴 齋藤博士立つて第2日の講演會開始を宣し 直ちに同君司會の下に菊田多利男君 氏家竹次郎君 柴田晴彦君の講演を了し10分間休憩に入り 午前10時30分河村博士の司會にて内川悟君 山本洋一君 佐野正夫君の講演ありたり 講演番號(19)木原堯己君の講演は本人の都合に依り中止せられたるにつき内川君の講演順序が變更されたるなり 正午工學部食堂にて晝食を取る

午後は1時より島岡氏司會をなし 篠内周三郎君の論文を中村一郎が代讀し 次いで小林佐三郎君 室井嘉治馬君の講演ありて10分の休憩に入る 午後2時30分より俵博士司會の下に原於菟雄君 堀健爾君 金森九郎君の講演次で10分休憩後水谷會長司會にて森寺一雄君 俵國一君の講演を終り 水谷會長閉會の辭(要旨別項)ありて盛況裡に講演會を終了す

晩餐會

10月3日(日) 午後6時 於札幌グランドホテル

午後6時に晩餐會の受付を開始 此の日の來賓者は 北海道廳長官 石黒英彦氏 北海道帝國大學總長高岡熊雄氏 北海道廳土木部長中村忠充氏 札幌市長三澤寛一氏 札幌遞信局長藤井崇治氏 商工會議所 札幌工業懇談會會長平塚貞治氏 北海道工業試験場長赤木敦氏 北海道製鐵倉庫會社 常務取締役有賀條夫氏 近海郵船會社小樽支店長大河内時夫氏 王子製紙會社苫小牧工場長高田良作氏 函館船渠會社々々長大塚巖氏 大日本麥酒會社札幌支店長笠原十司氏 帝國製麻會社札幌支店長納富喜雄氏 札幌工業學校々々西野金助氏の14名にして外に實行委員 講演者を招待し 會員を合計して86名の多數となつた

グランドホテルの華麗なる大サロンに待合せたる一同は或ひは舊交を温め 或ひは新知を求めて談笑すること少時 やがて大食堂に席定まる 宴進みてデザートコースに入るや水谷會長の挨拶に始まり

別項所載の如きテーブルスピーチに時の移るを忘れて一同歡を盡し和氣瀟々裡に散會せり

## 工場見學

第3日 10月4日(月) 小雨

午前7時30分 札幌グランドホテル前に集合 總員約60名 4臺のバスに分乘し 官弊大社札幌社に向ふ

### (1) 札幌神社参拜

一同拜殿に整列 水谷會長玉串を奉獻す 夜來の雨未だ霽れず 1940年冬季オリンピック會場附近の景色を眺め得ざりしは遺憾なり 参拜了り再びバスに分乘し 北海道帝國大學工學部に向ふ

### (2) 北海道帝國大學工學部

午前8時50分 北海道帝國大學工學部着 小憩の後三班に分れ見學す 超短波の動物植物に及ぼす影響 放電によるダストフィギニアの實驗等興味深く見學す 約40分にして見學了り 徒歩にて理學部に向ふ

### (3) 北海道帝國大學理學部

茅柴田兩教授の説明にて物理及化學教室に於ける鐵に關する理科方面よりの研究を見學し 了つて中央講堂にて世界唯一の第三紀の哺乳動物 デスモチルスの巨大な化石を見學 更にバスにて植物園に向ふ

### (4) 植物園

植物園に着く頃には幸ひ雨も殆んど止み 牧草の芝生綠美しき園内を巡覽す 博物館 温室或は多數の高山植物を集めて造られた見事なロックガーデン等 園長以下係員の懇切な案内にて見學す

見學終了後2班に分れ A班は小樽へ B班は大日本麥酒會社へ向ふ

A班はグランホテルにて晝食小憩の後 午後0時45分 全員36名 2臺のバスに分乘し 小樽國道を沿道の風景を賞しつゝドライブし 午後1時30分北海道製罐倉庫會社に着く

### (A 5) 北海道製罐倉庫會社

有賀取締役の挨拶 河村曉氏の謝辭あり 2班に分れ 大野龍郎 佐々木義博氏より内容設備 事業概要 模型による製罐作業の説明を受け 工場に至り空罐製造の製胴 罐縁作業 折曲機及高速度自動製罐機の機械作業並に包装の機械化に興味深く見學す 午後3時同所を辭し バスにて近海郵船會社に向ふ

### (A 6) 北海郵船會社日露樺太國境劃定會議室

大河内小樽支店長の挨拶並に種々の資料による樺太國境劃定前後の事情の説明あり 之に對し河村曉氏の謝辭あり そぞろに當時を追懐しつゝ午後3時30分見學了る

### (B 5) 大日本麥酒會社

B班32名は植物園より2臺のバスに分乘し 明治9年開拓使王廳の創設にかゝる本邦最古の麥酒製造會社 大日本麥酒會社醸造工場に向ふ 時間の都合により直に醸造課程を見學す 麥酒の仕込 醱酵 貯藏 酵母の純粹培養或は包装機等笠原支店長初め係員諸氏の懇切なる説明により興味深く参觀す 見學終了後事務所階上に集合 支店長の挨拶 齋藤大吉氏の謝辭あり 新鮮なビールを饗應をうけ サツポロビールの醍醐味を賞しつゝ晝食をとる

### (B 6) 帝國製麻會社札幌工場

午後1時30分再びバスに分乘し 帝國製麻會社に向ふ 納富工場長の挨拶 横田文吉氏の謝辭あり 後數班に分れ 原料の仕譯 櫛梳 精紡 精練 撚絲 織機 糊付 仕上の全工程を詳細に見學し 午後2時

40分 バスにて琴似の工業試験場に赴く

### (B 7) 北海道工業試験場

途中好天気となり 圓山附近の1940年冬季オリンピック會場の景觀をパノラマの如く車窓より觀望し 午後3時10分北海道工業試験場に着く 赤木工業試験場長より事業の概要につき説明あり 横田文吉氏の謝辭あり 3班に分れ 薄荷の精製 馬鈴薯澱粉により無水アルコールの製造 除蟲菊エッセンスの抽出等北海道農産物と關係深き研究 ホームスパンの試作等興味深く見學す かくてB班豫定の見學了り 午後4時20分 バスにて札幌驛に引返し午後5時札幌驛前に解散す

第4日 10月5日(火) 晴後雨

昨日の曇天に引換へ 今日は一気雲なく絶好の見學日和なり 北海道炭礦汽船札幌出張所々員の見送を受け 午前8時40分札幌驛發 夕張に向ふ 出張所長松浦三平氏はワザワザ夕張まで同行され 夕張に於ける見學の便を圖られしは 札幌に於ける宿舍の斡旋と共に感謝にたえざるところなり 午前9時10分野幌驛着 高洲炭礦汽船重役 能勢庶務部長以下多數の出迎を受く 社線夕張鐵道に乗換へ 新夕張驛に向ふ 車中に装置せる擴聲器にて刻々に移り行く風物の紹介 昨秋此地に舉行された特別大演習の状況 夕張炭山の沿革 さては熊に遭遇した話等次々に放送す 列車はやがて野幌平野を過ぎ 霧深き夕張の溪谷に入る 綠したるモミ ミヅタモに交りて ハゼ カエデの火の如く照り輝ける サクラ ツタの薄紅したるをあかず觀察する中に午前11時40分夕張鐵道の終點新夕張驛に着く

### (8) 北海道炭礦汽船會社夕張炭山

古谷支店長の挨拶(別項)あり 晝食の接待を受く 橋本夕張礦長の採礦に關する説明(別項)あり 會員を代表して齋藤大吉氏謝辭を述べ見學に向ふ 見學に先立ち 10尺層の露頭を背景に紀念撮影を行ひ 標準抗道に入り 採炭の實況を見學す 次で新裝成れるベルトコンベヤーに沿ひ選炭場に至り 洗炭及選炭の作業を見學し 午後2時特に準備された臨時列車にて栗山驛に向ふ 折から天候急變し 栗山驛にて省線に乗換し頃は土砂降となる 午後6時13分登別驛下車 バスに分乘し 明日の宿舍 登別温泉に向ふ 視界全くとぎれ 川面より立登るほのかな湯の香をなつかしみつつ 午後6時40分 ネオンに彩れた登別温泉に着 第1第2瀧本館に分宿す

### 古谷支店長挨拶

長途の御旅行並に札幌に於ける講演等でお疲れの所本日はわざわざ夕張礦の御視察を願ふことになりましたことはまことに有難く存ずる次第であります

當會社は明治22年の創立でありまして當時は北海道炭礦鐵道會社と稱し資本金600萬圓を以て鐵道と炭礦を經營して居りました 明治39年に鐵道が國に買収されましたので此金で汽船を購入して石炭の廻漕をやることゝ致し現在の社名に致しました又アームストロングピツカース會社と共同して日本製鋼所を創設し當時輪西に製鐵所を作りました此製鐵所は現在の日本製鐵の輪西工場であります

又海運業の方も其の後共立汽船會社を設立し別會社として經營致して居ります

當會社は今日専ら石炭及コークスの生産 殊に主として石炭の採掘を行つて居ります 現在では資本金7,000萬圓で鑛區1億2,000萬坪を所有し埋藏炭量は18億tであります

産出額は創立當時は年産1t 萬tでありましたが本年は370萬t 來年は400萬tを出炭する豫定であります 更に又近時の國策である鐵鋼の増産による石炭消費の増加に従ひましての近き將來に於

て當社出炭は年産600萬tに達するかと思はれます。こゝにお出になる途中汽車中で御覽になられたかも知れませんが若菜邊驛の附近に於て只今平和礦の開鑿をやつて居りますし空知の方には赤間赤平礦を開發する準備中でございます。

當會社に於て産出する炭種は粘結 中粘結 無粘結等種々ありますが殊にガスコークスの原料に適當である——夕張炭の埋藏量9億tであります。

元來北海道の石炭埋藏量80億tでありまして我が國の埋藏量100億tの半分を占めて居りますのに對し出炭額は昨年は900萬t本年は1,100萬t位でありまして我が國年産額4,000萬tの1/4しか産出してゐないのであります。

これは北海道の炭礦の歴史がまだ若いと云ふことの外に土地が廣大で人口少く工業が極めて貧弱である爲め本道炭市場の大部分が内地方面殊に東京以西にあることが大なる原因をなして居るのであります。北海道今後の開發は主として諸工業の振興に俟たねばならぬ状況であります。

昨夜の藤井逓信局長のお話にもあつた通り北海道は水力發電の資源は比較的少い様であります。各炭礦には粗悪炭が多量にありますが之を利用すれば豊富な電力を安く供給することが出来ませう。又石炭は御承知の通り甚だ豊富であります。各位の御力により本道に工業を興して頂きたいと我々は切望致す次第であります。

尙本日之から御覽を願ひます。夕張礦は當會社の出炭の主を充たしてゐるものでありまして我々が日夜心血を注いで經營致してゐる當會社の中心であります。よく御覽を頂ければ有難いと存じます。

後程夕張礦に付き橋本礦長から説明を申し上げることになつて居りますから御聴取を願ひます。

簡單であります。之をもちましていさゝか歡迎の御挨拶と致します。

#### 橋本夕張礦長説明

夕張礦の概要に付て御説明申し上げます。

當夕張町は面積50餘方里で町内に停車場が13もありまして1ヶ年に町内から石炭を300萬t位出して居ります。

炭礦は夕張 大夕張 眞谷地 登川等があります。

夕張礦は此の事務所の前の方にあるのが本坑それから川上にあるのが丁未坑川下に新夕張向ふの峠を越えた所に角田坑之れだけを總稱して夕張と云つて居るのであります。

當礦は室蘭迄145 軒小樽迄165 軒の距離にあります。

夕張で稼行し得る炭層は上層 中層 下層の三層ありまして本層と云ひますのは六尺層次に約一尺の頁岩をはきみ八尺層次に約三尺の頁岩をはきんで十尺層がありまして合計二十四尺あります。故に二十四尺層と云つて居ります。上層は本層より53 米程上に在り厚約1 米あります。下層は本層より約150 米下の方に在り厚さ1 米乃至3 米あります。現在では本層及下層を稼行して居ります。

炭層の走向は大變曲つて居りまして新夕張では南東より北西にはしり本坑では西より東に向へ更らにその方向を北に轉じ丁未に於ては南東から北西にはしつて居ります。その先は更に彎曲し北に山を越えて萬字へ行つて居ります。傾斜は本坑丁未方面は10 度内外新夕張方面は非常なる地層の變動がありまして一定しておりませぬ。

當礦の石炭は粘結性で瓦斯用又はコークス用として甚だ適してゐる特性があります。下層の方は御承知の如く汚物でありまして家庭用炭 低溫乾溜に用ひられるのであります。

採掘方法を申し上げますと主要坑道は岩石中に保ち一は運搬坑道と

して炭層の下約20 米の所にあり他の一は排氣用及び材料の搬入坑道として炭層の上約20 米の所に在り炭層に連絡して居ります。

採掘順序は先づ八尺層を掘りましてその跡を土砂充填を致します。それから六尺を掘り次に十尺層を採掘するのであります。之れは炭層が二十四尺もあり充填しなければ全層の石炭を採れぬ關係と一方自然發火を防ぐ爲めであります。

六尺層及十尺層の採掘跡は部分充填を致します。

採炭法は長壁式(ロングオール式)であります。ロング面の長さは100 米乃至2 米ありましてストライクの方向に採掘しながら1 日1 米50 乃至2 米進んで行くのであります。

一採炭場から1 日に出る石炭は600 t乃至800 tでありまして此の石炭の運搬は採炭場にてはシエカーコンベヤー又はベルトコンベヤーを用ひて居ります。沿層水平坑道にてはゲートベルトから堅坑を通つて下盤坑道に落ち之れより先は本坑に於ては片磔坑道 斜坑 坑外と連續せるゴムベルトによりて選炭場迄搬出され本坑以外は堅坑の下に於て炭車に積みまして選炭場迄搬出されます。

本坑の各採炭場より出る石炭は凡て斜坑メインベルトに集り1 日約3,700 t 運んで居りますが5,000 t 位迄は運ぶ能力を有つて居ります。

ベルトの幅は切羽は24 吋坑道は30 吋 メインベルトは42 吋であります。

主要ベルトは延長約5,000 米動力約2,000 馬力であります。夕張礦の出炭は年産約200 t でありまして1 日約6,500 t であります。將來はもつと増産する計畫であります。

選炭機は本坑 丁未 新夕張 角田と4ヶ所ありまして夫々相應の能力を持つて居ります。

私共が最も苦心を拂つて居りますのは御承知の通り炭坑は瓦斯が多いのですが之れに對する設備の完備に細心の注意を拂つて居ります。現在では各採炭場では電力を使用致しません。こうして火の元を作らぬやうにして掘つて居りますから瓦斯爆發は絶対に起きないと信じて居ります。

坑内の照明はエヂソン帽上電燈を使用して居ります。尙係員は常に油安全燈を携帯して瓦斯の檢定を行ひ別に精密な瓦斯檢定器を隨時使用して安全を期して居ります。

又夕張では自然發火の惧がありますから之れに對して充填をなしたりして非常に苦心して居ります。

尙坑内作業なるが故に天井に岩石を有しておりますから落磔防止に苦心をして居ります。

炭層が二十四尺ある爲之れを採掘する順序に付ては長い間苦心をしてゐましたが此れも最近殆んど完成致しました。

何分石炭は量が多い仕事ですから運搬には特に意を用ひて居り本年5月には前申し上げました本坑ベルトが完成致しまして大變順調に運轉して居りますから之れを他にも及ぼす計畫であります。

私共は此の非常時局に際し多量に必要なある燃料の補給に事缺かぬ様に努めて居りますが人間の少ない點は機械力により補充して行く積りであります。

以上まことに簡單で御座いますが之れを以て夕張礦の御説明と致します。

第5日 10月6日(水) 晴

明くれば5日 夜來の豪雨名残なく霽れ 嵐後爽かにして膚寒きを覺ゆ 午前8時25分登別温泉發 アイヌ部落視察に向ふ

(9) 白老アイヌ部落視察

午前9時18分白老驛着 驛頭白老村々長對馬豐太郎氏の出迎を受け 同氏の案内にて部落に至る 舊土人宮本亥之助氏宅にて同村郵便局長にしてアイヌの研究者として知られる満岡伸一氏の詳細なる説明を聴取す 宮本夫妻アイヌの正装にて坐し カメラの亂射の裏に熊狩 熊祭 鮭探りを賞演しながらに行ふ 會員一同一かどのアイヌ通になりすまし アイヌ細工を家路とに午前11時32分樽前風吹きすさぶ白老を後に苫小牧に向ふ

#### (10) 王子製紙會社苫小牧工場

午後0時3分苫小牧驛着 見學委員栗田正己氏の出迎を受け徒歩にて王子製紙苫小牧工場に向ふ 工場長高田良作氏の挨拶並に見學工程の詳細なる説明あり 晝食の饗應を受く 河村曉氏謝辭を述べ數班に分れ工場見學に向ふ 一抱に抱へられない材木が細片となり纖維となり遂に純白な紙になる全工程を隈なく視察し 午後3時12分苫小驛發の列車にて登別に向ひ 午後5時宿舎に歸着す

#### 第6日 10月7日(木) 晴

天氣益々時期にして絶好の撮影日和なるも 見學委員の厳しき達により昨日猛烈に活躍したるカメラの姿を消したるは一抹の淋しさを覺ゆ 午前9時 4臺のバスに分乘し 名残をおしみつゝ登別温泉發 室蘭に向ふ 紅葉谷の紅葉 キロベツの放牧 ランギツケの奇岩 初夏ならば鈴蘭の薫風そよぐワシベツの原野 イタンキのゴルフリンクス等 カメラマニアの歎きをよそに バスは毎時70 軒の速力にて マラソン道路として津田選手が讚嘆おかざる舊稱札幌街道を一氣に突破し 午前9時40分日本製鐵會社輪西製鐵所に着く

#### (11) 日本製鐵會社輪西製鐵所

所長以下所員の出迎を受け休憩室にて小憩の後 所長横田文吉氏立つて挨拶並に擴張工事の概要 見學コースの説明あり 齋藤大吉氏會員を代表し謝辭を述べ 5班に分れ見學に向ふ 熔鑪爐 鑛石燒結作業を參觀し 發電所の高樓に上り 目下進捗中の擴張工事を展望し 完成の曉の壯觀を想像す 次で燬炭爐 コーライト工場 硫安 ベンゾール及タール蒸溜設備等全工場隈なく見學し 午後0時10分バスに分乘し日本製鋼所室蘭製作所に向ふ

#### (12) 日本製鋼所室蘭製作所

午後0時25分 鬱蒼と茂る茶津山の麓 製鋼所構内を一望の下に望む製鋼所1號役宅に着く 所長以下所員の出迎を受け少憩の後 所長打越光保氏挨拶を述べ 製鐵所及製鋼所の接待になる晝食を受く 水谷會長一場の挨拶を述べ 鍛刀所の沿革並に刀匠堀井俊秀氏の紹介あり 會員を代表して齋藤大吉氏謝辭を述べ 5班に分れ見學に向ふ 鍛刀所にて日本刀鍛錬の實況を見學し 造刀に關する詳細なる説明を聴く 次で鑄造 熔鋼 鍛鍊及壓延工場を見學し 午後2時10分バスに分乘し室蘭市棧橋に向ふ

#### (13) 室蘭驛ローダー及トランスポーター

午後2時30分 室蘭 棧橋着 北海道炭礦汽船室蘭賣炭所長栗原寛氏 所長代理福谷玉樹氏の出迎を受け 同所の接待になる舩にて室蘭驛埠頭に向ふ 室蘭運輸事務所長武井敦通氏の出迎並に石炭積込装置の説明あり 横田文吉氏會員を代表して謝辭を述べ 室蘭驛長熊谷綾雄氏の案内にて東洋一を誇る鐵道省自慢のローダー及トランスポーターによる石炭積込の實況を具に見學し 再び舩に乗り室蘭市棧橋に歸着す 時に午後3時30分なり 之にて見學を了り 午後4時28分室蘭發の列車にて虻田に向ふ スクラップの山積に時局を反映する日本製鋼所 紅蓮の焰を吐く輪西製鐵所の熔鑪爐 チリベツ原野に發然と聳ゆる黒崎窯業の50 米の大煙突に北海道重工業の中心室蘭市の將來の發展を想ひ 夕闇せまる室蘭港に點滅する防波堤の燈臺 今だに石油ランプを使用する省線黄金藥驛の物寂びた風景を車窓に眺め 伊達紋別 長流 有珠と難解な驛名を判讀する中に午後6

時11分 列車は虻田驛に停車す 茲にて電車に乗換 今宵の宿舎洞爺温泉に向ふ 4日間に亘る工場見學豫定通り終了し 明日より隨意見學となるを以て 解散式を洞爺温泉驛前に舉行す 協會を代表して評議員室井嘉治馬氏解散の辭を述べ 見學委員の勞を多とするむねの挨拶あり 見學委員を代表して阿部象一氏答禮し 室井氏の發聲にて協會の萬歳を三唱し 小波よする洞爺湖畔の宿舎に向ふ 時に午後7時10分

#### 第7日 10月8日(金) 晴

登別 洞爺と天下に其名を唱はれた鑛泉に俗腸を洗ひ 姫鱈 山女筋子 貝柱等地方色豊かなホルモン料理を満喫し 3日間の同宿にて100 年の知己を得たる會員一同 潑刺たる元氣を以て北海道に於ける見學最後の日を朝靄立込める洞爺湖畔に迎へた

俱知安鑛山見學の會員 16 名は昨夜ワザワザ洞爺温泉に出迎へられた所長大町政利氏の案内にて 自動車に分乘し 湖畔を迂回し一路俱知安に向ふ

#### (A) 俱知安鑛山 (10月8日金)

大町所長始とし所員方の御懇篤なる案内に連れ時下大問題とされて居る重要資源鐵鑛の産出状況を見學し興味多大なるを覺ゆ全員一同御厚志を謝し大満足裡に退散し次の目的地へと急馳す

靜野金山見學者 16 名 函館ドック見學者 6 名は自動車を連れ 活火山有珠岳の中腹を突破し虻田驛に至り 午前8時26分 虻田驛發 函館行列車に乗車す

#### (B) 靜野金山

午前9時26分靜野驛着 茲にて函館ドック見學者と訣別す 驛頭に自動車を用意し出迎られた工務課長小林勝之助氏の案内にて靜野鑛山事務所に至る 所長土屋祐氏の出迎 梅澤技師の説明あり 會員を代表して小泉豊次郎氏謝辭を述べ 土屋所長の案内にて工場の見學に向ふ 何の奇もない石英岩より燦然たる金塊(實は金銀亜鉛の合金にて白色を呈す)になるまでの全工程を詳細に見學し 1tに對し金含有量3瓦と云ふ 世界一の貧鑛處理の優秀なる技術に感歎し 擴張工事に活氣漲る靜野金山を後に午後11時51分靜野發の列車にて函館に向ふ

#### (C) 函館ドック (10月8日金)

當會社は北海道に於ける船渠の大權威である 今回特に本會々員の見學に對し御便宜を與へられ本道斯界の状況を具に見學し 得る處多大にして一同御厚志に對し謝意を表し大満足裡に退散し次の目的地へ馳す

#### (D) 釜石製鐵所見學

(往路者 9月29日 水 復路者 10月10日 土)

當製鐵所は日鐵系の有位なる工場にて同所の見學日9月30日及10月10日兩回見學會員到着毎に歓迎を受く且つ當所は目下大擴張中にて異常の繁忙中にも不拘藤田所長始めとし各員の御懇篤なる案内に連れ作業一般諸設備は勿論現に大資本投下の許に大増産計畫工事の着々進行状況を見學し 一同得る處多大にして御厚志に對し深甚の謝意を表し大満足裡に退散せり 見學者兩回合計 37 名なりき

#### (E) 東北大學金屬材料研究所見學

(往路者 9月30日 水 歸路者 10月11日 日)

當所は本邦金屬研究所の權威否宗家の様な所であつて今回見學會員の到着毎に村上所長始め各擔當係員の御懇篤なる案内にて金屬科學の大新發展の状況を見學し 得る處多大にして一同深甚の謝意を表し大満足裡に退散し 往行者は大會參加又は釜石製鐵所へ急馳し復行者は只管歸宅を樂み出發す (文責記者)

以上を以て本大會の大終結とす 茲に各位の益々御奮勵と同時に御健康を禱る